

JOHN CAGE

cage out

macaroom

1 Branches + Song Books (Solo For Voice 8, 50, 84, 91)

ブランチズ + ソングブックス

2 Rozart Mix (For Magnetic Tape)

ローツァルト・ミックス

3 Original Soundtrack from "cage out"

オリジナル・サウンドトラック・フロム・ケージ・アウト

演奏 macaroom 木石南 秋山ゴブ大知

協力 川島素晴

<http://macaroom.net>

Kiishi Bros. Entertainment



アルバムについて

このプロジェクト・アルバムは、現代音楽の作曲家である川島素晴に専門的なアドバイスをもらいながらmacaroomが制作したもので、現代音楽のスーパースター、ジョン・ケージの楽譜を演奏した作品が収録されている。ジョン・ケージの曲をアレンジしたりカバーしたのではなく、楽譜を極めて忠実に解釈して演奏したものだ。しかしこれらの楽曲を聴けば、多くの人々がイメージしているであろうジョン・ケージとは違うものになっていることがわかる。「開かれている」と形容されるケージの楽譜を演奏したら、このような形のものにすることも可能なのだ。しかしこれはケージの冒険ではない。現にケージ自らが、自身の楽譜と演奏される音は全く別のものだと言っているし、これが正解という演奏は存在しないと断言しているからだ。

楽曲について

●01 Branches + Song Books

このトラックは『Branches』というパーカッション用の曲と、『Song Books』という歌集を同時に演奏することで1曲にしている。なお、ジョン・ケージは同時演奏を推奨しており、過去にもこれらの曲は度々他の曲と同時演奏されている。

・Branches

Branchesは、10種類の植物を探して、それを使って演奏することが求められる曲。ケージにしてはめずらしく即興演奏が許されている。

DTM上でのプラグインシンセの使用や指定されているもの以外のサンプリングの使用は一切ない。

10種類のうち2種類はホウオウボクノサヤとサポテンと指定されていて、それ以外は自由に探して良い。上記2種類以外で使用した植物は大根、ススキ、ヒシの実、木の枝、ピロードモウズイカ、熊笹、ビワの葉、松ぼっくり。

リズムのキックにあたる部分は大根を使用している。音程感の感じられる音は木の枝で、枝をピンと弾いた時に出た音の中からダイアトニック(Dメジャー)に近い音程を探し、当てはめている。

それぞれの楽器(植物)は易经によってパート分けされている。三つのコインを使用して、ひとつの楽器につき6回振る。

アサヒが作る適切なリズムは、秋山ゴブ大知が用意したアルゴリズムによって解体され、ランダム化されている。このアルゴリズムは遺伝的な要素によってだんだんと適切な数値に近づいていくので、後半になるほどポップなリズムへと近づいていく。

・Song Books

のべ90曲以上ある曲集のタイトルで、この中の8番、50番、84番、91番を使用した。

50番

emaruが歌う最もポップなフレーズは50番より。この曲は35番のメロディーを取り出したもので、歌詞を歌わずハミングで歌うことが許されている。さらに、歌詞を忘れていたり、指定されたピッチ通りに歌わなくても良いことが明記されているので、実際のピッチとも実際の歌詞とも多少違ったものになっている。そのおかげで、絶妙にポップかつ指示された通りの演奏が可能になった。

91番

おもにアサヒが歌っている部分は91番より。これは五線譜に示された曲なので、楽譜通りに忠実に歌っている。

84番

コーラスのような部分は84番より。これは五線譜ではなく、2次元上の点で示されたものを歌うのだが、特にルールは明記されていないので、DTM上のMIDIエディット画面に当てはめて正確なメロディを作り出した。

8番

中盤でパチンパチンと入るノイズは、8番から。これは「修練された動き」をすることが求められた曲で、中国武術の世界大会で1位となった木石南にカンフーの演武してもらった。木石南の動きをマイクで拾い、楽譜に指示されているように「最大限に」増幅した。

●02 Rozart Mix

これは磁気テープを使用する曲。テープを同時にいくつも再生したり取り替えたりしながら、一つの曲を演奏する、というもので、テープの中身については特に指定がない。今回使用した磁気テープは、カセットテープとオープンリール。楽譜には最低で8つの再生装置が必要で、50以上のループ素材が必要なので、それだけ用意した。テープの中身は、特に指定がないので、macaroomの「ame」という曲のリミックス用データのトラックからそれぞれテープに書き出した。8つの再生装置を動かしながらタイミングを調整することで、見事にポップな曲が演奏できるばかりか、これはRozart Mixではなくmacaroomの「ame」にしか聞こえない、というものになった。

英語の朗読をしているものはアサヒの母が中学生のときにオープンリールに吹き込んだもので、本人曰く「下手すぎる」。スクラッチ音もこのオープンリールから。

●03 Original Soundtrack

今回のプロジェクトを追ったドキュメント映像「cage out」のためのオリジナル・サウンドトラック。実験主義、ミニマリズムなどの手法を使いながら、最終的にはポップになるような構成。他の2曲とは違い、唯一macaroomのが作曲した作品。